

3年 単元名「わたしたちの海をまもろう ～大好き小木クリーン大作戦～」(30時間)

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

・身近な海の素晴らしさを知り，ふるさとの海を大切にしていこうとする気持ちを育む。

2 単元目標

九十九湾探検，生きものハンドブックの作成，海岸のクリーン作戦を通して，海がかけがえのないものであることに気づくとともに，身近にある海の様子を知り，海の環境を守るために自分のできることを考え，実践することができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	海岸の環境に興味を持ち，主体的に漂流物を拾ったり，調べたり，海の美化活動のために，課題を見いだしている。 課題について必要な情報を適切に収集し，計画的に調べている。 調べたことや考えたことを，相手意識を持って，分かりやすく表現している。	海の環境を美化するために活動している。	課題解決するために，関係する専門機関の方や友だちと，協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 3	九十九湾の様子を調べる。 ・九十九湾に行き，どんな生き物がいるか，どんな物があるか観察する。 ・調べてわかったことをまとめる。	・救命胴衣着用
4	九十九湾の環境について考える。 ・調べてわかったことについて話し合い，九十九湾はどんな海といえるか考える。	
5 14	九十九湾の素晴らしさを知らせるために，九十九湾に生息する生き物のハンドブックを作る。 ・九十九湾の素晴らしさを知らせる方法を考える。 ・生き物ハンドブックを作る。	
15 30	身近な海の環境について考え，環境保全のために自分たちができることを考え，実行する。 ・身近な海の環境について考える。 ・海のクリーンアップ作戦を考える。 ・クリーンアップ作戦を実行する。	・海上保安署員と漂流物調査を実施する。

外部連携 / 教材等

・のと海洋ふれあいセンター ・海上保安署

【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』

5 活動の様子



発見したことをカードへ記入



蓬萊島発見



生け簀の中の魚を観察

6 成果・課題

児童たちにとって身近な海であるが、実際に船に乗って海に出たことで、潮の香り、風を感じることができた。海の中での生きものの様子や湾の中の風景、また、陸上から見えるものが海から見ると、どのように見えるのかなど多くのことを児童は発見することができた。

九十九湾のすばらしさを体感することができ、九十九湾のよさを広めるために、生き物ハンドブックを作るという次の活動への十分な意欲づけとなった。

天候に左右される活動なので、利用する船との連絡を密にする必要がある。また、児童の体調へ配慮しなければならない。船に乗るときに気をつけることや、観察するときの観点について事前に十分話し合うことが大切である。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・小木の海には魚や生きものがたくさんいてすごかったです。
- ・魚のしゅるいや海草のしゅるいなど小木の海のことがもっと知りたいです。

〈小木の海はどんなところだろう〉

分かったこと

- ・小木の海は、きれいな色だなと分かりました。
- ・小木にカモメがくるのが分かりました。
- ・九十九湾には、色々な岩の形があるのがわかりました。
- ・小木(九十九)には、

思ったこと・考えたこと

- ・小木(九十九湾)には、しせんがいっぱいあるなと思いました。
- ・小木の海は、きれいな色なので、海の生き物がすみやいと思いました。
- ・ゴミが少しあるので、ゴミのない、きれいな海にしてほしいと思いました。
- ・いなかでもすはらしい所だと思いました。

ブリ、ナメス、イシダイ	海の水の色	海そう	カモメ <small>(うみまこ)</small>	ほうらい島	くらげ	発見したものの様子
大きな小さいの、黒い色、えさをおいしそ、うに食べていた。	まがや水色だったとてまきれいだ。	海の上についていた。 <small>隣の船、おつぐらい、木の上の、小さいの。</small>	山の上からとんだ。 <small>白く黒い、いれ、まてに長なま。</small>	海の所はつたていた。 <small>山の上、黒、とてま、ま、か、た、緑色、うら。</small>	上から見た、丸かた、ちま、少し水色、少し小さかた。	ブカブカついていて、

九十九わんをたんけんしよう 名前

アジ	タコ	カモメ	かいそう	ほうらい島	クラゲ	発見したものの様子
目かち、とでか、およぐのが早かた。	8本の足についている、さうは、人が、さ、た。	深し、そうにとん、た。	ま、と、ま、て、う、か、ん、で、いた。	木が多かた。	いろいろな、と、り、や、め、い、な、色、だ、つ、た。	ブカブカつかんで、どう、め、い、な、色、だ、つ、た。

九十九わんをたんけんしよう

3年 単元名「わたしたちの海をまもろう ～大好き小木クリーン大作戦～」(30時間)

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

- ・身近な海の素晴らしさを知り、ふるさとの海を大切にしていこうとする気持ちを育む。

2 単元目標

九十九湾探検、生きものハンドブックの作成、海岸のクリーン作戦を通して、海がかけがえのないものであることに気づくとともに、身近にある海の様子を知り、海の環境を守るために自分のできることを考え、実践することができる。

3 単元の評価基準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わり
評価 規 準	海岸の環境に興味を持ち、主体的に漂流物を拾ったり、調べたり、海の美化活動のために、課題を見いだしている。 課題について必要な情報を適切に収集し、計画的に調べている。 調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	海の環境を美化するために活動している。	課題解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、協同して活動している。

4 単元の指導計画

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
一	1 3	九十九湾の様子を調べる。 ・九十九湾に行って、どんな生き物がいるか、どんな物があるか観察する。 ・調べてわかったことをまとめる。	・救命道具着用
	4	九十九湾の環境について考える。 ・調べてわかったことについて話し合い、九十九湾はどんな海といえるか考える。	
二		九十九湾の素晴らしさを知らせるために、九十九湾に生息する生きものハンドブックを作る。 ・九十九湾の素晴らしさを知らせる方法を考える。 ・生き物ハンドブックを作る。	
三		身近な海の環境について考え、環境保全のために自分たちができることを考え、実行する。 ・身近な海の環境について考える。 ・海のクリーンアップ作戦を考える。 ・クリーンアップ作戦を実行する。	・海上保安署員と漂流物調査を実施する。

外部連携 / 教材等

- ・海洋ふれあいセンター
- ・海上保安署

5 活動の様子



6 成果・課題

児童たちは、ポイ捨てした缶などが落ちてっていると予想していた。実際に海岸へ行って漂流物の調査を行なったことでさまざまなごみがたくさん落ちていたことに驚いていた。海岸の汚れを実感できた。また、調査には海上保安署の方にも協力していただいたので、児童だけでは難しいごみの種類分けも行うことができた。海をきれいにしようという意欲が高まった。また、拾ったごみは環境衛生課の方が翌日収集する手配をしてくださり助かった。

海岸での活動なので海に入らないことや足場に気を付けることなど児童に注意をする必要がある。また、ごみの中には危険物が含まれていることがあるので、かってにさわらないことを指導必要がある。ごみを種類別に分けるときの後始末のことを考えて、ほうきと塵取りを持っていくべきだった。また、児童は軍手をつけて作業をしていたが手が汚れたので替えの軍手や石鹸を携帯していくとよい。

7 子どもの反応やミニ感想

海にはどんなごみが多かったか。

名前 (山田 隼)

○どんなごみが多かったか。

1	ハッピーステチロール
2	ロープ
3	キャップ

○ごみを調べて分かったこと。

捨てた牛乳や流れついた牛乳や
缶うに関係しているごみがあった。

○考えたこと。

ごみを海に捨てないでください。海
いかに汚れるか。ごみを捨て
ないでください。きれいにしたい。

海にはどんなごみが多かったか。

名前 (小野 莉子)

○どんなごみが多かったか。

1	かわら
2	ハッピーステチロール
3	ガラスのかけら

○ごみを調べて分かったこと。

かわらがたんと「い」ということ
が分かった。

○考えたこと。

なぜごみを海に捨てる人
がいるのか
きれいになりたい。どうやってきれいにすればいいか。